

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No.

2907

科目概要記入欄

1. 開設大学	島根県立大学		開催 方法	■対面（ 浜田キャンパス ）		
				□オンライン（同時・録画・資料提示）		
				□対面（ ）・録画		
2. 科目名	正式科目名	国際環境政治学			クラス名	3・4
	副題				配当年次	
	旧科目名				受入学年	
	学問分野	番号	43	名称	環境	
	サテライトで開講される科目の科目群			A群	B群	
3. 担当教員名	沖村 理史					
4. 単位数	2単位		5. 開講学期	春学期（集中）		
6. 開講期間 曜日・時間	年 月 日（ ）～ 年 月 日（ ） 調整中 集中講義 9：00～18：00					
個別開講日	1回目 /	2回目 /	3回目 /	4回目 /	5回目 /	6回目 /
	7回目 /	8回目 /	9回目 /	10回目 /	11回目 /	12回目 /
	13回目 /	14回目 /	15回目 /	16回目 /	試験日	/
7. 基礎知識の有無	2. 「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数 （総授業定員）	5人 （ 人）		9. 定員超過時の 選考方法	書類選考		

10. 科目内容・授業計画	<p>国際的な環境問題は、21世紀の国際社会が抱えるグローバル・イシューの主要な一つである。本講義では、主に地球環境問題とグローバル・ガバナンスに焦点をあて、諸問題の個々の内容に踏み込み、事例を検討する。具体的には、国際的な環境問題が社会化するプロセスとして重要な国際環境会議と、政策手段として重要な国際環境条約をとりあげ、意義と交渉過程を検討する。本講義の目的は以下の三点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 現実に展開している地球環境問題の現状の把握とそれをとらえる視点の理解 2) 政策決定に当たり、直面するさまざまな側面の相互関連を自ら考える作業 3) 自ら考える作業を通じて出てきた問題点・意見の交換 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な環境問題に関する現状を理解し、基礎知識を説明できる ・国際的な環境問題への対応に関する基礎知識、基本原理、基本原則を説明できる ・国際的な環境問題の諸側面の相互関連を自ら考え、分析的に思考・表現することができる <p>I. イントロダクション／地球環境問題</p> <p>第1回 イントロダクション／現代の地球環境問題の課題</p> <p>第2回 環境と開発</p> <p>第3回 発展途上国と持続可能な発展</p> <p>第4回 国際環境会議と国際環境条約の意義</p> <p>II. 国際環境会議</p> <p>第5回 国際環境会議(1) 国連人間環境会議(1972)と国連環境開発会議(1992)</p> <p>第6回 国際環境会議(2) ヨハネスブルグ・サミット(2002)</p> <p>第7回 国際環境会議(3) Rio+20 会議(2012)</p> <p>III. 国際環境条約</p> <p>第8回 国際環境条約(1) 越境大気汚染(前編) 長距離越境大気汚染条約</p> <p>第9回 国際環境条約(2) 越境大気汚染(後編) 大気汚染防止議定書</p> <p>第10回 国際環境条約(3) オゾン層保護(前編) ウィーン条約</p> <p>第11回 国際環境条約(4) オゾン層保護(後編) モントリオール議定書</p> <p>第12回 国際環境条約(5) 気候変動(前編) 国連気候変動枠組条約</p> <p>第13回 国際環境条約(6) 気候変動(中編) 京都議定書</p> <p>第14回 国際環境条約(7) 気候変動(後編) パリ協定</p> <p>IV. まとめ</p> <p>第15回 地球環境問題をめぐる国際環境政治学の課題</p>		
11. 試験・評価方法	出席(約30%)、試験(約70%)で評価する。		
12. 別途負担費用			
13. その他特記事項	<p><参考文献></p> <p>亀山康子、馬奈木俊介編『グローバル社会は持続可能か』岩波書店、2015年。</p> <p>亀山康子、馬奈木俊介編『資源を未来につなぐ』岩波書店、2015年。</p> <p>新澤秀則、高村ゆかり編『気候変動政策のダイナミズム』岩波書店、2015年。</p> <p>川名英之『世界の環境問題<第1-11巻>』緑風出版、2005-15年。</p> <p>窪田順平編『モノの越境と地球環境問題ーグローバル化時代の<知産知消>』昭和堂、2009年。</p>		
14. サテライト科目の 社会人受講について	科目等履修生(単位付与)として受け入れ	可	否
	聴講生(単位認定不要)として受け入れ	可	否

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン(同時・録画・資料提示)へ変更になる場合があります。